

# 授業改善プラン

地域名	東上総教育事務所	学校名	いすみ市立岬中学校
-----	----------	-----	-----------

## 1. 課題（全国学力・学習状況調査結果から）

○すべての領域において全国平均を下回った。特に「資料の活用」の正答率が低かった。関数の正答率はそれほど低くなく、県平均は上回っている。観点別で大きく下回っているのは「数学的な見方や考え方」であった。問題形式では「記述式」が下回っている。また、「記述式」になると、無解答率が非常に高くなる。このことから、自分なりの考えをもち、表現することを苦手とする生徒が多いことが本校の課題であると考えられる。

## 2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

○生徒自らが意欲的に取り組もうとする課題の設定、自らの考えを表現する場を意図的に設けることにより、基礎・基本を確実に身に付けさせることができ、自ら考える力を育むことができるであろう。

## 3. 具体的な実践

- 第3学年「関数  $y = ax^2$ 」
- ・関数  $y = ax^2$  の表の特徴を考える学習では、グループごとに  $a$  の値を替え、取り組ませた。
  - ・全体で共有する場面では、それぞれのグループの発表から共通している点を「 $y = ax^2$  の表の特徴」とした。また  $a$  の正負による違いなどに着目させた。
  - ・表の特徴から、グラフの特徴として、どんなことが推測されるかを考えさせた。

## 4. 成果

- 事後調査の結果について  
平成 28 年度の B 問題に、今年度と類似の問題があったので、事後調査として実施したところ、正答率が上がり、説明する問題の無解答率が低くなった。
- 表現力の向上について  
その後の学習活動において、教え合いの場面が多く見られるなど、積極的に自分の考えを伝え合おうとする姿勢が高まった。

### ◆担当指導主事から（東上総教育事務所 指導主事 白土 俊幸）

岬中学校は、自校の課題解決のために「学ぶ意欲」を「みんなで数学」、「筋道を立てて思考したり、表現したりする力」を「全ての教科で」と、全校体制で取り組んでいた。全ての教員が、学年・学級の生徒に対する数学の学習状況を把握し、個別指導をするなど、先生方の意識の変化が、生徒の大きな成長の支えとなっていた。